

財団法人いばらき腎バンク

[法人の概要]

平成16年7月1日現在

代表者名	理事長 小山 哲夫(非常勤)	所管部(局)課	保健福祉部 薬務課
所在地	水戸市笠原町978-6	電話番号	029-301-3384
ホームページURL		E-mailアドレス	
資本金(基本財産)	417,825 千円	設立年月日	平成元年 12月 14日
主な出資者	出資順位	出資者名	出資額 出資比率
	1	茨城県	281,288 千円 67.3 %
	2	市町村	100,000 千円 23.9 %
	3	茨城県腎臓病患者連絡協議会	10,000 千円 2.4 %
	4		千円 0.0 %
	5		千円 0.0 %
その他	7 団体 6 個人	26,537 千円	6.4 %
設立目的	腎不全患者の早期回復と腎不全の予防を図るため、県、市町村、企業、団体、個人に至る幅広い協力によって、県民運動としての腎不全対策を積極的に推進していくことを、目的として設立した。		

[事業の概要]

事業名	平成16年度事業費	内容
事業1 腎提供登録広報活動事業	1,362 千円	目的:腎提供者の確保 内容:啓発用資材の作成やキャンペーンを行う経費 公益性:臓器移植希望者の97%を占める腎移植希望患者のため、多くの死体腎提供者を募る公益事業である。
事業2 コーディネーター確保対策事業	700 千円	目的:臓器移植への理解の推進 内容:院内コーディネーターの養成のための助成 公益性:腎提供の可能性のある医療機関への院内コーディネーター養成は、腎提供の増を図るうえで公益性がある。
事業3 腎不全予防対策事業	600 千円	目的:腎不全予防の啓発 内容:腎不全予防指導資料の作成 公益性:増加の著しい腎疾患患者の腎不全予防を推進する公共事業である。

[組織]

7月1日現在の人数	年度	平成14年			平成15年			平成16年		
		県派遣	県OB		県派遣	県OB		県派遣	県OB	
役員	常勤理事	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非常勤理事	17	0	1	17	0	1	17	0	1
	常勤監事	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非常勤監事	2	0	0	2	0	0	2	0	0
	計	19	0	1	19	0	1	19	0	1
職員	管理職	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般職	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	臨時職員	1	0	0	1	0	0	0	0	0
	嘱託職員	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	計	1	0	0	1	0	0	1	0	0
当期常勤職員の年齢構成	20代以下	30代	40代	50代以上	合計	平均年齢	平均勤続年数			
	1				1	29歳6ヶ月	8年 4月			

[収支の状況]		財団法人いばらき腎バンク		(単位:千円)
区 分	平成13年度	平成14年度	平成15年度	
収 支 の 状 況	収入合計	4,647	4,723	4,909
	事業収入	4,647	4,723	4,909
	事業外収入	0	0	0
	支出合計	4,753	4,501	4,959
	事業支出	2,173	2,033	1,438
	事業外支出	2,580	2,468	3,521
	うち管理費	2,580	2,468	3,521
	うち人件費	2,015	2,007	2,096
	当期収支差額	-106	222	-50
	正味財産増加額	0	0	195
	正味財産減少額	0	0	58
	当期正味財産増減額	-106	222	87
	前期繰越正味財産	422,285	422,179	422,401
期末正味財産	422,179	422,401	422,488	
財 産 の 状 況	資産	422,179	422,401	423,174
	流動資産	4,295	4,517	5,154
	固定資産	417,884	417,884	418,020
	負債	0	0	686
	流動負債	0	0	686
	うち短期借入金	0	0	0
	固定負債	0	0	0
	うち長期借入金	0	0	0
	正味財産	422,179	422,401	422,488

[財的関与の状況]		(単位:千円)		
区 分	平成13年度	平成14年度	平成15年度	
財 的 関 与 状 況	補助金	0	0	0
	委託金	0	0	0
	貸付金			
	計	0	0	0
	財政的関与の割合(%)	0%	0%	0%
	損失補償・債務保証			

[平成15年度の補助金等の目的・内容等]

支 出 項 目	目 的 ・ 内 容 ・ 効 果
補助金	
委託金	
貸付金	

[評点集計]

評価の視点	評価項目数	評点	満点	得点率
計画性	4	-3	8	-37.5%
目的適合性	5	3	14	21.4%
組織運営の適正性	4	3	8	37.5%
健全性	11	30	40	75.0%
効率性	8	4	28	14.3%
合計	32	37	98	37.8%

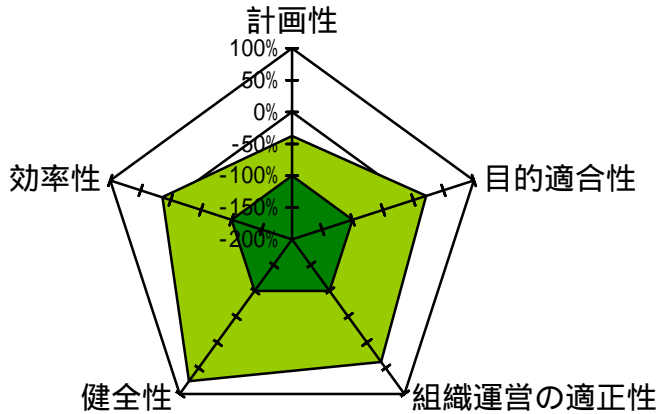
公益法人会計用

財団法人いばらき腎バンク

警戒指標

--

経営評価レーダーチャート



(評価の視点)

計画性	経営目的、経営方針が各種計画に反映され、計画・実行・見直しが行われているか
目的適合性	法人が行っている事業と当初の設立目的が適合しているか
組織運営の適正性	組織、人事、財務等の内部管理体制が適切に整備・運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切か
健全性	法人の財務体質が健全であるか、また、各事業の採算性がとれているか
効率性	組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているか

各評価項目については、「出資法人等経営評価指標及び評価基準等」を参照

[総合評価]

取組みを強化すべき視点	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">計画性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">目的適合性</div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">組織運営の適正性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">健全性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">効率性</div> </div>
総合的所見等	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">概ね良好</div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">改善の余地がある</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">緊急の改善措置が必要</div> </div> <p>腎不全対策への取り組みの必要性は十分に認められるが、当財団は常勤の役員が不在で、県業務課職員が団体職員を兼務するなど自律して責任ある運営が行える体制が整っていないといわざるを得ない。したがって、早急に、事務局移管や他団体との統合など組織の抜本的な見直しを行うとともに、その間の対策として賛助会員制度の導入など自主財源の拡充を検討する必要がある。</p>

総合的所見等に係る対応	<ol style="list-style-type: none"> 1 法人の役割を見直した上で、腎不全対策事業の積極的展開を図るとともに、臓器移植においても現在の体制と適切な連携を図れるよう、適切な法人運営を指導する。 2 また、自律運営のための常勤役員を置けるよう、自主財源拡充のため、基本財産のより有利な運用や賛助会員制度の新規導入など早急な検討を継続指導していく。 3 事務局移管や他団体との統合問題については、出捐者等の意見集約を図りながら、受入先調整等に努め、法人の意思決定を促していく。
-------------	--

< 財団法人いばらき腎バンク から県民のみなさまへ >

本県は、更なる腎移植事業や生涯を通じた腎不全対策の推進が、まだまだ必要な現状にあります。財団では、組織体制の抜本的な見直しや自主財源拡充方策の検討を進め、その使命を果たせるよう努力してまいりますので、一層のご理解とご支援をお願いいたします。

平成17年2月 理事長 小山哲夫

[法人の自己評価(経営概況, 経営上の課題, 対策等)]

計画性	目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
腎不全の未然防止と移植以外に治療法のない患者への腎移植推進のため、できるだけ多くの県民や医療現場の理解・協力が得られる社会の形成を長期目標に、年次計画のもと啓発支援事業を検討評価しつつ実施している。	(社)日本臓器移植ネットワークを中心としたあっせん移植体系が整備され、ドナーの登録制など検討すべき事業もあるが、地域の啓発・支援を図る事業で、今後さらに関係者の期待を集めている。	全役員が非常勤かつ事務局運営も兼務の県職員にほとんど依存しており、事務等適正管理されるが、事業の柔軟な企画や対応の面での課題もある。	事業の財源は、基本財産の運用益でほとんどまかなわれ、比較的健全であるが、金利変動の影響を受けない財源確保も望まれる。	1名の嘱託専任職員の給与のみに人件費を低く押えて、事業運営しており、基本財産の高利運用など、収益増を図る必要がある。
今後の事業展開の方向	県民や医療現場の啓発支援を強力に推進する必要があるため、安定した財源を確保し、事務局のあり方、必要な事業を検討し、柔軟な企画のもと事業拡大を図ってゆく。			

[法人を担当する課の意見]

計画性	目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
多くの県民や医療現場が腎移植を理解・協力する社会の形成を目指し、地道な事業を計画展開していると認める。	臓器提供意思表示カードの出現で従来からのドナー登録制の意味が薄れており、時代の求める事業への切り替えを検討すべき。	県以外への事務局移管のメリットも精査し、安定した財源確保を図ったうえで実効ある事務局組織を目指してゆくべき。	事業運営のさらなる健全化のため、より高金利の基本財産運用や賛助会員制導入など財源の安定化を図るべき。	専任職員を増やせるよう、財源の確保を図りボランティアも活用しながら、事業効率を改善すべき。
第三次行財政改革大綱に係る取組状況	推進事項		取組み状況	
	現職県職員の団体役員兼任の縮減		現職県職員を精査したところ、出資者(県)代表として、保健福祉部長。受益者(児童・生徒の保健増進)代表として教育長。就任の立場が異なっており、互いに補完不可。今後も縮減は難しい。	
法人担当課の意見	中長期計画の策定について指導を継続する。また、より効果的な意識啓発活動の実現のため、安定した財源確保対策を講じたうえで県以外への事務局移管を助言指導していく。 5つの視点、すべての改善に安定した財源確保が関係するため、優先して指導する。現職県職員が兼務する団体役員は立場が異なり相互に補完できないため縮減は難しい。			